

大分県長期教育計画（「教育県大分」創造プラン2016）
に基づく施策の達成状況（平成29年度）について

- 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
（フォローアップ）について …… P 1 ～ P 2
- 2 「教育県大分」創造プラン2016（概要）
…………… P 3 ～ P 4
- 3 目標指標の達成状況（平成29年度）
…………… P 5 ～ P 13
 - ・ 達成状況（全体、重点）
 - ・ 基本目標ごとの達成率概要
 - ・ 達成率が「著しく不十分」（達成率80%未満）となった指標

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（フォローアップ）について

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。（法第26条第1項）。

また、教育委員会は、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。（法第26条第2項）

2 点検・評価の実施方法等

①実施方針

点検・評価は、教育委員会において定める「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針」に従って進めます。

②対象期間

点検・評価は、前年度の教育に関する事務の管理・執行状況を対象に行います。

③点検・評価項目

点検・評価は、「大分県長期教育計画（『教育県大分』創造プラン2016）」（計画期間：平成28～36年度）の項目を基本として実施しています。

④学識経験を有する者の知見の活用

「大分県長期教育計画委員会」における委員からの意見の聴取をもって、法第26条第2項に規定する学識経験を有する者の知見の活用としています。

⑤報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、県議会に提出するとともに、大分県教育委員会のホームページに掲載し、公表します。

平成30年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
フロー図

～ 業務、事務の流れ等 ～

〈 〉内は実施主体等

～ 6月

大分県長期教育計画の21項目の施策ごとに、進捗状況や課題等の整理
〈教育庁（担当各課・室）〉



7月

進行管理表から課題等を抽出し、全般の状況をまとめる
〈教育庁（教育改革・企画課）〉



8月1日

有識者による大分県長期教育計画フォローアップ（進行管理等）等の審議
〈大分県長期教育計画委員会〉



8月下旬

～

9月上旬

点検及び評価の総括の審議
〈教育委員会〉



9月中旬

「点検及び評価報告書」を決定及び点検・評価報告書を県議会に報告



9月中旬

～

今後の教育行政の施策に適切に反映

2 「大分県長期教育計画（『教育県大分』創造プラン2016）」（概要）

（1） 計画策定の趣旨

- 教育改革の経緯や教育を取り巻く時代の趨勢を踏まえ、「大分県長期総合計画（安心・活力・発展プラン2015）」に基づく教育部門の実施計画として策定（平成28年3月策定）
- 次代を担う大分県の全ての子どもたちが、変化の激しい困難な時代を生き抜く力と意欲を身に付けられるよう、これまでの教育改革の流れを継承し、更なる高みを目指して不断の努力を継続することで「教育県大分」の創造を目指す

（2） 計画の性格・役割

- 「大分県長期総合計画」の教育部門の実施計画
- 「大分県長期総合計画」の教育関係部分と併せて、教育基本法第17条第2項に基づく「教育振興基本計画」として位置付け
- 本県教育の進むべき方向やそれを具体化するための施策を示す、本県教育の振興に向けた指針となるもの

（3） 計画の期間

平成28年度（2016年度）から平成36年度（2024年度）までの9年間

（4） 計画の基本理念等

【計画の基本理念】

生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造

【最重点目標】

「全国に誇れる教育水準」の達成

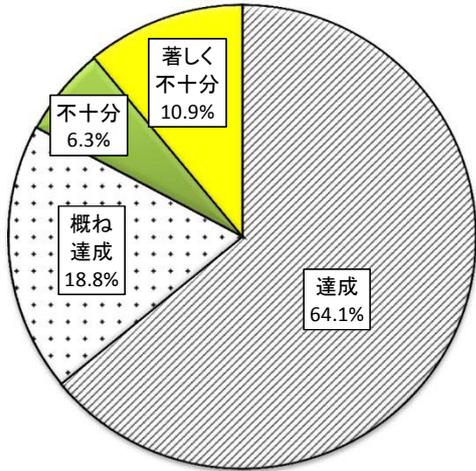
- ⇒大分県の全ての子どもたちに未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育を推進
- ⇒「大分県長期総合計画」に基づく8つの基本目標の下、21の施策を計画的・総合的に推進
- ⇒最重点目標として「全国に誇れる教育水準」の達成を目指す
- ※「学力」「体力」「未来を切り拓く意欲」「グローバルに活躍する力」に関わる指標を設定

(5) 施策体系

学校教育	基本目標 1 子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進 (1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心の育成 (3) 健康・体力づくりの推進 (4) 幼児教育の充実 (5) 進学力・就職力の向上 (6) 特別支援教育の充実 (7) 時代の変化を見据えた教育の展開
	基本目標 2 グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成
	基本目標 3 安全・安心な教育環境の確保 (1) いじめ対策の充実・強化 (2) 不登校対策等の充実・強化 (3) 安全・安心な学校づくりの推進
	基本目標 4 信頼される学校づくりの推進 (1) 「芯の通った学校組織」の取組の深化 (2) 教職員の意識改革と資質能力の向上 (3) 魅力ある高等学校づくりの推進
社会教育	基本目標 5 変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援 (1) 多様な学習活動への支援 (2) 社会全体の「協育」力の向上 (3) コミュニティの協働による家庭教育支援の推進
伝文 統化 文財 化・	基本目標 6 文化財・伝統文化の保存・活用・継承
スポーツ	基本目標 7 県民スポーツの推進 (1) 生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成 (2) 県民スポーツを支える環境づくりの推進
	基本目標 8 世界に羽ばたく選手の育成

3 目標指標の達成状況(平成29年度)

【全体】



【達成率の評価基準】	
100%以上	◎:達成
90%以上100%未満	○:概ね達成
80%以上 90%未満	△:不十分
80%未満	×:著しく不十分

分野別達成状況

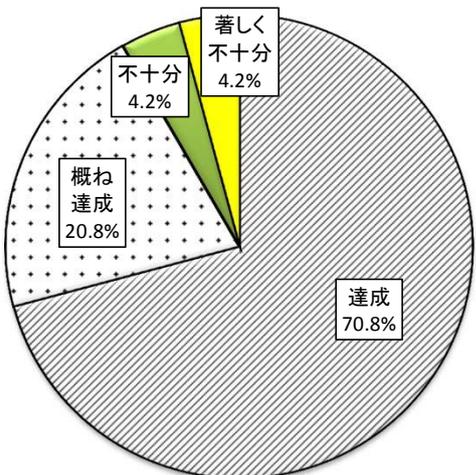
	達成	概ね達成	不十分	著しく不十分
学校教育 (53指標)	31 (58.5%)	11 (20.8%)	4 (7.5%)	7 (13.2%)
社会教育 (5指標)	5 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
文化 (2指標)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
スポーツ (4指標)	3 (75%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)

全体指標総数	達成	概ね達成	不十分	著しく不十分
64	41	12	4	7

前年度から実績が向上した指標
47/64指標

基準値を超える実績を挙げた指標
55/64指標

【重点】



分野別達成状況

	達成	概ね達成	不十分	著しく不十分
学校教育 (17指標)	11 (64.7%)	4 (23.5%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)
社会教育 (2指標)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
文化 (2指標)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
スポーツ (3指標)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)

全体指標総数	達成	概ね達成	不十分	著しく不十分
24	17	5	1	1

前年度から実績が向上した指標
16/24指標

基準値を超える実績を挙げた指標
21/24指標

基本目標ごとの達成率概要

【達成率の評価基準】

100%以上	達成
90%以上100%未満	概ね達成
80%以上 90%未満	不十分
80%未満	著しく不十分

【基本目標1】 子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進（31指標）

達成 15指標
 概ね達成 9指標
 不十分 4指標
 著しく不十分 3指標



- | | |
|----------------------------|-------|
| ○ 授業がわかると感じる生徒の割合（高校） | 70.2% |
| ○ 主体的に学ぼうとする生徒の割合（高校） | 66.4% |
| ○ 1ヶ月に1冊も本を読まない児童生徒の割合（高校） | 76.8% |

【基本目標2】 グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成（2指標）

達成 1指標
 著しく不十分 1指標



- | | |
|---------------------------------------|-------|
| ○ 一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験のある生徒の割合（高校） | 64.0% |
|---------------------------------------|-------|

【基本目標3】 安全・安心な教育環境の確保（7指標）

達成 3指標
 概ね達成 2指標
 不十分 なし
 著しく不十分 2指標



- | | |
|--|-------|
| ○ 不登校児童生徒の出現率（小学校） | 57.6% |
| ○ 公共施設等総合管理計画に基づく保全計画（個別施設計画）を策定している市町村の割合 | 39.9% |

【基本目標 4】 信頼される学校づくりの推進（13指標）

達成	12指標
概ね達成	なし
不十分	なし
著しく不十分	1指標



○ 指導教諭の配置対象校への配置率（特別支援学校） 0%

【基本目標 5】 変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援（5指標）

達成	5指標
概ね達成	なし
不十分	なし
著しく不十分	なし

【基本目標 6】 文化財・伝統文化の保存・活用・継承（2指標）

達成	2指標
概ね達成	なし
不十分	なし
著しく不十分	なし

【基本目標 7】 県民スポーツの推進（3指標）

達成	2指標
概ね達成	1指標
不十分	なし
著しく不十分	なし

【基本目標 8】 世界に羽ばたく選手の育成（1指標）

達成	1指標
概ね達成	なし
不十分	なし
著しく不十分	なし

達成率が「著しく不十分」(達成率80%未満)となった指標

目標指標名	単位	H26	平成29年度																																										
		基準値	目標値	実績値 (前年度)	達成率																																								
授業がわかると感じる生徒の割合(高校)	%	34.5	44.0	30.9 (41.3)	70.2%																																								
指標の 考え方	<p>○ 毎年度実施する、高校2年生に対するアンケート調査(学習習慣等実態調査)において、以下の5つの質問項目すべてに肯定的な回答をした生徒を「授業がわかると感じる生徒」としている。</p> <p>【質問項目】</p> <p>①目的や自分の課題を明確にして授業に参加していますか。 ②授業の内容は理解できていますか。 ③授業に積極的に取り組むことができているか。 ④授業中に工夫してノートをとっていますか。 ⑤授業を受けることによって、自分の学力が向上していると思えますか。</p>																																												
分析	<p>【指標の推移】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">区分</th> <th style="width: 10%;">H26 (抽出調査)</th> <th style="width: 10%;">H27</th> <th style="width: 10%;">H28</th> <th style="width: 10%;">H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">授業がわかると感じる生徒の割合</td> <td style="text-align: center;">34.5%</td> <td style="text-align: center;">36.3%</td> <td style="text-align: center;">41.3%</td> <td style="text-align: center;">30.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>アンケート調査結果(肯定的な回答をした生徒の割合)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">項目</th> <th style="width: 10%;">H26</th> <th style="width: 10%;">H27</th> <th style="width: 10%;">H28</th> <th style="width: 10%;">H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①目的意識</td> <td style="text-align: center;">67.1%</td> <td style="text-align: center;">54.5%</td> <td style="text-align: center;">57.5%</td> <td style="text-align: center;">50.1%</td> </tr> <tr> <td>②内容理解</td> <td style="text-align: center;">77.4%</td> <td style="text-align: center;">71.5%</td> <td style="text-align: center;">75.0%</td> <td style="text-align: center;">70.9%</td> </tr> <tr> <td>③積極性</td> <td style="text-align: center;">72.9%</td> <td style="text-align: center;">75.5%</td> <td style="text-align: center;">78.9%</td> <td style="text-align: center;">70.9%</td> </tr> <tr> <td>④ノート工夫</td> <td style="text-align: center;">85.7%</td> <td style="text-align: center;">71.4%</td> <td style="text-align: center;">75.8%</td> <td style="text-align: center;">66.1%</td> </tr> <tr> <td>⑤学力向上</td> <td style="text-align: center;">60.1%</td> <td style="text-align: center;">76.5%</td> <td style="text-align: center;">77.9%</td> <td style="text-align: center;">76.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 前年比(H28からH29にかけて)で最も数値が下がったのが、「④授業中に工夫してノートをとっていますか」に肯定的な回答をした生徒の割合(-9.8P)であり、適切にメモをとる指導の不足や、プリント教材への書き込みによる授業展開が行われていることが想定される。</p> <p>○ 「⑤授業を受けることによって、自分の学力が向上していると思えますか」に肯定的な回答をした生徒の割合は、基準値(H26)から数値が増加してきており、教員の授業力に直結する項目であることから、教師の授業スキルが一定程度高まったと考えられる。</p>					区分	H26 (抽出調査)	H27	H28	H29	授業がわかると感じる生徒の割合	34.5%	36.3%	41.3%	30.9%	項目	H26	H27	H28	H29	①目的意識	67.1%	54.5%	57.5%	50.1%	②内容理解	77.4%	71.5%	75.0%	70.9%	③積極性	72.9%	75.5%	78.9%	70.9%	④ノート工夫	85.7%	71.4%	75.8%	66.1%	⑤学力向上	60.1%	76.5%	77.9%	76.7%
区分	H26 (抽出調査)	H27	H28	H29																																									
授業がわかると感じる生徒の割合	34.5%	36.3%	41.3%	30.9%																																									
項目	H26	H27	H28	H29																																									
①目的意識	67.1%	54.5%	57.5%	50.1%																																									
②内容理解	77.4%	71.5%	75.0%	70.9%																																									
③積極性	72.9%	75.5%	78.9%	70.9%																																									
④ノート工夫	85.7%	71.4%	75.8%	66.1%																																									
⑤学力向上	60.1%	76.5%	77.9%	76.7%																																									
課題	<p>○ 生徒が深く思考し、判断した内容をノートに記載して、学習内容や学習履歴を振り返ることができるような授業にすること。</p> <p>○ 各教員が生徒のノートづくりに繋がる板書や教材づくりをするように授業を工夫改善すること。</p> <p>○ 各教員が「授業がわかると感じる生徒」を増やすための授業づくりのポイントを理解し、それぞれの個別の課題を明確にすること。</p>																																												
取組状況	<p>○ H27から、全高校、全教科で「授業改善スクールプラン」を、全教員が「授業改善マイプラン」を策定するようにして、PDCAサイクルによる授業改善を進めている。 「授業改善スクールプラン」・・・学校全体としての授業改善計画 「授業改善マイプラン」・・・「授業改善スクールプラン」を踏まえた各個人の授業改善計画</p> <p>○ H30から、「授業がわかると感じる生徒」と判断するための、アンケート調査の質問項目に対応する授業づくりのポイントを以下の6つのアクション(方策)として教職員に示し、自校及び個人の課題を明確にして授業改善に取り組むように指導している。(「授業改善マイプラン」に6つのアクションに基づく授業改善計画を記載するようにした。)</p> <p>【6つのアクション】</p> <p>①目標 …… 身に付けさせたい力(目標)の明確化 ②教材 …… 身に付けさせたい力の育成の観点からの教材の選定・開発 ③授業構想 …… 1つ1つの学習活動が有機的に結びついた授業構想 ④発問 …… 学習者に深い思考や気づきを促す発問の工夫 ⑤板書等 …… 学習の流れや重点がわかる板書計画等 ⑥振り返り …… 授業者・学習者双方による身に付いた力の振り返り</p> <p>○ 指導主事による全校訪問を実施している。学校指導に際しては、スクールプラン・マイプランの進捗について把握するとともに、6つのアクションを踏まえた指導を行っている。</p>																																												

目標指標名		単位	H26	平成29年度																																										
			基準値	目標値	実績値 (前年度)	達成率																																								
主体的に学ぼうとする生徒の割合(高校)		%	10.8	22.0	14.6 (12.6)	66.4%																																								
指標の 考え方	<p>○ 毎年度実施する、高校2年生に対するアンケート調査(学習習慣等実態調査)において、以下の5つの質問項目すべてに肯定的な回答をした生徒を「主体的に学ぼうとする生徒」としている。</p> <p>【質問項目】</p> <p>①授業などの学習を通じて生じた疑問点を自分で調べたり、教員や友人に聞いて解決しようとしていますか。</p> <p>②宿題は提出していますか。</p> <p>③宿題の他に自ら学習に取り組んでいますか。</p> <p>④進路に関することなど、自分の興味・関心のある情報を新聞や書籍、インターネット等を利用して集めていますか。</p> <p>⑤将来自分のしたいことを実現したり、生活したりする上で、学校での学習(HR活動、総合的な学の時間、学校行事等も含む)は役に立つと思いますか。</p>																																													
分析	<p>【指標の推移】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H26 (抽出調査)</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主体的に学ぼうとする生徒の割合</td> <td>10.8%</td> <td>10.4%</td> <td>12.6%</td> <td>14.6%</td> </tr> <tr> <td colspan="5">アンケート調査結果(肯定的な回答をした生徒の割合)</td> </tr> <tr> <td>①疑問点解決</td> <td>61.5%</td> <td>59.6%</td> <td>57.5%</td> <td>67.2%</td> </tr> <tr> <td>②宿題提出</td> <td>—</td> <td>70.3%</td> <td>70.1%</td> <td>79.3%</td> </tr> <tr> <td>③自己学習</td> <td>—</td> <td>21.6%</td> <td>19.6%</td> <td>30.5%</td> </tr> <tr> <td>④進路等情報収集</td> <td>58.3%</td> <td>53.5%</td> <td>50.9%</td> <td>53.5%</td> </tr> <tr> <td>⑤学校学習</td> <td>84.1%</td> <td>80.2%</td> <td>80.0%</td> <td>80.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 「主体的に学ぼうとする生徒」の割合は、目標値には達していないものの2年連続で上昇している。</p> <p>○ 「③宿題の他に自ら学習に取り組んでいますか」の割合が、他の質問項目に比べて突出して低くなっているが、前年比(H28からH29にかけて)で最も数値が高くなっている(+10.9P)</p>						区分	H26 (抽出調査)	H27	H28	H29	主体的に学ぼうとする生徒の割合	10.8%	10.4%	12.6%	14.6%	アンケート調査結果(肯定的な回答をした生徒の割合)					①疑問点解決	61.5%	59.6%	57.5%	67.2%	②宿題提出	—	70.3%	70.1%	79.3%	③自己学習	—	21.6%	19.6%	30.5%	④進路等情報収集	58.3%	53.5%	50.9%	53.5%	⑤学校学習	84.1%	80.2%	80.0%	80.7%
区分	H26 (抽出調査)	H27	H28	H29																																										
主体的に学ぼうとする生徒の割合	10.8%	10.4%	12.6%	14.6%																																										
アンケート調査結果(肯定的な回答をした生徒の割合)																																														
①疑問点解決	61.5%	59.6%	57.5%	67.2%																																										
②宿題提出	—	70.3%	70.1%	79.3%																																										
③自己学習	—	21.6%	19.6%	30.5%																																										
④進路等情報収集	58.3%	53.5%	50.9%	53.5%																																										
⑤学校学習	84.1%	80.2%	80.0%	80.7%																																										
課題	<p>○ 生徒に宿題以外の自発的な家庭学習をどのように仕組むかが今後の課題</p> <p>○ 高校生の学習習慣については、中学校までの家庭学習の在り方との関わりが大きいことから、中学校及び高等学校双方の教員が、相互の学びをつなぐ上での課題や方策等について共通理解を深めていくこと。</p>																																													
取組状況	<p>○ 指導主事による学校訪問の際、予習を前提とした授業展開等により、生徒の家庭での自発的な学習が仕組まれるよう指導を行っている。</p> <p>○ 「中高の学びをつなぐ連携協議会」を実施して、中学校及び高等学校双方の教員が、相互の学びをつなぐ上での課題や方策について協議をすることで、互いの校種を意識した生徒への指導をするように促している(H29は、「主体的に学ぶ生徒の育成」をテーマとして協議を実施した)。</p>																																													

目標指標名		単位	H26	平成29年度											
			基準値	目標値	実績値 (前年度)	達成率									
1ヵ月に1冊も本を読まない児童生徒の割合(高校)		%	41.1	36.2	44.6 (42.1)	76.8%									
指標の 考え方	○ 毎年度実施する、高校1年生に対するアンケート調査(高校1年生の読書習慣に関する調査)において、「1ヵ月の間に読む冊数」を0冊と回答した生徒を「1ヶ月に1冊も本を読まない生徒」としている。														
分析	【指標の推移】														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1ヵ月に一冊も本を読まない児童生徒の割合(高校)</td> <td>41.1%</td> <td>39.2%</td> <td>42.1%</td> <td>44.6%</td> </tr> </tbody> </table>						区分	H26	H27	H28	H29	1ヵ月に一冊も本を読まない児童生徒の割合(高校)	41.1%	39.2%	42.1%
区分	H26	H27	H28	H29											
1ヵ月に一冊も本を読まない児童生徒の割合(高校)	41.1%	39.2%	42.1%	44.6%											
課題	【高校1年生の読書習慣に関する調査結果(H29)から】														
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 半数以上の生徒が「1ヵ月に1冊も本を読まない」と回答した学校が26校で、全体の約6割となっており、全体の不読率の高さに繋がっている。 ○ 学校図書館を利用した読書を全くしていない生徒の割合が全体の6割を超えていることも、全体の不読率の高さに繋がっている。 ○ 新聞を「毎日読む」を回答した生徒の割合は3%程度となっている。 ○ 「読書が好き・普通」と回答した生徒の割合は全体の約8割で、何らかのきっかけで読書に取り組む可能性がある。 ○ ビブリオバトル大会の出場校は、不読率が低い傾向にある。 「ビブリオバトル」 ・・・参加者がそれぞれおすすめの1冊を持ち寄り、決められた時間内で本の紹介をし合うコミュニケーションゲーム。中学生・高校生を対象に実施 														
取組状況	○ 各学校において本を読む習慣をつけるきっかけとなる場を設定すること。														
	○ 活字に触れさせる機会の確保に向けて、学校図書館を活用し、メディアや書籍等を使用した探究型の授業を展開すること。														
取組状況	○ ビブリオバトル大会を継続実施(H28・H29の2年で延べ19校が出場)し、校内予選を通じた参加を促す文書を各県立学校へ通知している。														
	○ 学校図書館を活用した探究型学習を推進するため、教職員(校長、司書教諭、司書)への学校図書館活用に係る研修を実施している。														

目標指標名		単位	H26	平成29年度												
			基準値	目標値	実績値 (前年度)	達成率										
一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある生徒の割合(高3)		%	17.5	35.0	22.4 (25.3)	64.0%										
指標の 考え方	<p>○ 毎年度実施する、高校3年生に対するアンケート調査(国際交流状況調査)において、「一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある」と回答した生徒の割合</p> <p>【一定の期間の定義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2、3日以上の間 ・ALT(外国語指導助手)との活動は除く ・外国への修学旅行参加者、クラスに留学生がいる場合は「経験あり」とする 															
分析	<p>【指標の推移】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある生徒の割合(高校3)</td> <td>17.5%</td> <td>17.5%</td> <td>25.3%</td> <td>22.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【国際交流状況調査の結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験」は、主に海外修学旅行が高い割合を占める。そのため、海外修学旅行数の増減により、数値は大きく変動する。 ○ 国際交流活動を実施しても、年間1回だけのセミナー参加や、1日だけの訪日教育旅行の受け入れなど単発的なものに終わってしまい、「一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験」に繋がっていない。 						区分	H26	H27	H28	H29	一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある生徒の割合(高校3)	17.5%	17.5%	25.3%	22.4%
区分	H26	H27	H28	H29												
一定の期間、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある生徒の割合(高校3)	17.5%	17.5%	25.3%	22.4%												
課題	○ 外国人との継続的・中長期的な協働体験を提供できる取組をすること。															
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ Web会議システムを活用して、国内外の学校等と継続的な遠隔交流を実施している(H29は、県立高校6校が5カ国(ベトナム・インドネシア・バングラディシュ・中国・アメリカ)の人々と交流)。 ○ 県立学校での海外姉妹校協定等の締結を実施し、国際交流を推進している(H29では、県立高校4校が5カ国(タイ・韓国・台湾・イギリス・ニュージーランド)の高校と海外姉妹校協定等を締結して交流を実施)。 ○ 高校1、2年生を対象としたグローバルリーダー育成塾(年間4～5回実施)を開催し、年間を通じた継続的な国際交流の場を提供している。 															

目標指標名	単位	H25	平成28年度												
		基準値	目標値	実績値 (前年度)	達成率										
【重点】 不登校児童生徒の出現率(小学校)	%	0.37	0.33	0.47 (0.51)	57.6%										
指標の考え方	○ 毎年度、文部科学省により実施される「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、連続または断続して30日以上欠席した児童生徒を「不登校児童生徒」としている。														
分析	【指標の推移】														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校児童生徒の出現率(小学校)</td> <td>0.37%</td> <td>0.45%</td> <td>0.51%</td> <td>0.47%</td> </tr> </tbody> </table>					区分	H25	H26	H27	H28	不登校児童生徒の出現率(小学校)	0.37%	0.45%	0.51%	0.47%
	区分	H25	H26	H27	H28										
	不登校児童生徒の出現率(小学校)	0.37%	0.45%	0.51%	0.47%										
	不登校の要因の割合														
	(家庭) 家庭に係る状況	21.5%	23.6%	46.2%	45.9%										
	(学校) いじめを除く友人関係問題	6.8%	9.7%	19.8%	18.2%										
	(学校) 学業不振	5.6%	7.1%	17.5%	13.5%										
	(学校) いじめ	1.5%	0.2%	0.3%	0.6%										
	(学校) 教職員との関係	0.8%	2.4%	5.4%	2.9%										
	(学校) 進路不安	0.2%	0.0%	2.6%	0.3%										
	(学校) 部活動等への不適応	0.0%	0.4%	0.3%	0.3%										
	(学校) 学校のきまり等をめぐる問題	0.0%	0.7%	3.8%	1.8%										
	(学校) 入学・転編入学・進学時の不適応	3.0%	1.3%	4.1%	0.9%										
	(本人) 病気による欠席	12.6%	7.9%	-	-										
	(本人) あそび・非行	0.8%	0.9%	-	-										
	(本人) 無気力	13.6%	13.9%	-	-										
	(本人) 不安など情緒的混乱	19.2%	21.4%	-	-										
	(本人) 意図的な拒否	3.8%	2.9%	-	-										
	(本人) 上記以外の本人に関わる問題	4.8%	2.9%	-	-										
その他(H28は上記に該当無し)	5.3%	2.9%	-	15.6%											
不明	0.5%	1.8%	-	-											
○ 小学校の不登校を要因別に見ると、割合が高いものは、家庭に係る状況(45.9%)、友人関係(18.2%)、学業不振(13.5%)となっている。(H28年度)															
○ 不登校の要因は複雑で多様だが、家庭に係る状況が増加しており、割合が一番高い。															
○ 小学校低学年から高学年になる時期においては、発達の個人差が顕著になり、学力・体力等で劣等感を抱きやすくなり、不登校が増加する傾向にある。															
課題	○ 担任一人で抱えこまず、「チーム学校」による、早い段階からの組織的・専門的な支援を行うこと。														
○ 家庭の問題に起因する不登校の増加への対策															
取組状況	○ 心理の専門家であるスクールカウンセラー(SC)の全小・中学校配置														
○ 福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカー(SSW)の全中学校区配置															
○ 法律の専門家であるスクールロイヤー(SL)を配置(H30新規)															
○ 専門スタッフを効果的に活用するため、全公立学校に「教育相談コーディネーター」を校務分掌に位置付け、組織的な対応により解決を図るように徹底している。															
「教育相談コーディネーター」															
…SC・SSW等の専門スタッフや関係機関との連絡調整を行う教職員															
○ 地域における不登校児童への支援のため、「地域児童生徒支援コーディネーター」配置(小学校4名)															
「地域児童生徒支援コーディネーター」															
…不登校児童生徒の支援や未然防止の取組に加えて、地域における各学校の「教育相談コーディネーター」の支援・助言を行う教職員															

目標指標名		単位	H26	平成29年度		
			基準値	目標値	実績値 (前年度)	達成率
公共施設等総合管理計画に基づく保全計画(個別施設計画)を策定している市町村の割合		%	0	27.8	11.1 (5.6)	39.9%
指標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共施設等総合管理計画に基づく保全計画(個別施設計画)を策定している市町村の割合 【個別施設計画】 学校施設等の長寿命化を図るため、個別施設毎の具体的な対応方針(実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す)を定める計画 					
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の市町村においては、H32年度までには策定を終える予定となっているが、予算確保・担当者のノウハウ不足などにより現時点で着手に至っていない市町村があるなど進んでいない状況にある。 ○ 「個別施設計画」策定済市町村数 2 (H30.4現在) ○ 国は、各設置者に対し「個別施設計画」の策定をH32年度までに終わることを求めている。 ○ 国は、「個別施設計画」の策定が交付金採択の要件とすることを検討している。 					
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村の計画策定スケジュールの前倒しについて、個別に働きかけを実施する。 ○ 市町村担当課長等に対する講演会を実施し、下記を周知している。 <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定の必要性 ・計画に基づく今後の学校施設の整備・維持 等 					

目標指標名		単位	H26	平成29年度		
			基準値	目標値	実績値 (前年度)	達成率
指導教諭の配置対象校への配置率(特別支援学校)		%	0	60.0	0 (43.8)	0.0%
指標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の特別支援学校全て(16校)に対しての指導教諭配置率 					
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学校については、各学部経営の強化、授業改善(個別の指導計画の充実、指導方法の改善)を目的として、まずは学部主事に主幹教諭を配置し、学校組織の強化を図る必要がある。 					
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当分の間、特別支援学校の全校においては指導教諭よりも主幹教諭を優先して配置し、学校組織の強化を図る。 					